

# 日英語の心理的距離を縮めるコミュニケーション

## —ポライトネスとフェイス侵害行為の視点から—

松倉 信幸

### 要旨

円滑なコミュニケーションを行うために、話し手と聞き手との間の人間関係により、ことばの選択が行われる。本稿は、「相手との心理的距離感」をあまり感じさせない対人コミュニケーションについて、ブラウン&レヴィンソンの主としてポジティブ・ポライトネスおよび「フェイス侵害度」を理論的根拠として、日英語間に見られるコミュニケーションの差異についても念頭に置き考察を加えた。具体的な事例分析について、第1に着目した点は、相手との心理的距離を縮める呼称および人称代名詞である。第2点は相手との心理的距離を縮める付加疑問、命令文、および現在分詞などの文法構造である。そして、第3点目は、積極的表現、欠点を表明する表現、そして相手の視点から見る呼びかけ語を用いた表現について、日英語における表現の差異について分析を試みた。

### キーワード

心理的距離、フェイス侵害行為、ポライトネス、ポジティブ・ポライトネス、ネガティブ・ポライトネス

### 1. はじめに

ポライトネスを扱った日英語コミュニケーションに関する論考は、丁寧さにフォーカスが置かれたネガティブ・ポライトネス理論やそのストラテジーに関する考察がほとんどと言ってよいだろう。本稿では、「相手との心理的距離感」をあまり感じさせない対人コミュニケーションについて、話し手と聞き手との間の人間関係により、ことばの選択が行われるため、ブラウン&レヴィンソンのポライトネス理論に基づき、「話し手」と「聞き手」による「社会的距離」, 「聞き手」と「話し手」の力関係, そして、「特定の文化における負荷」に焦点を置いた「フェイス侵害度(測定法)」を理論的根拠として考察を行う。

### 2. ブラウン&レヴィンソンのフェイス侵害行為

円滑な対人コミュニケーションを行うために、双方のメンツを保つことで、友好的な関係を維持することが求

められる。このメンツと同意を成す語にフェイスがある。ブラウン&レヴィンソン(1987)において対極的な二つのフェイス、すなわちネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイスが考案された。前者は他人に自分の領域を邪魔されたくないという欲求であり、後者は他人から好かれたいという欲求である。

また、相手や自分のフェイスを傷つける場合があり、そのことをブラウン&レヴィンソンはフェイス侵害行為(face threatening act: FTA)と呼んでいる。

### 2.1. ブラウン&レヴィンソンのフェイスを考慮したポライトネス・ストラテジー

円滑なコミュニケーションを行うために、ブラウン&レヴィンソン(1987)はフェイスを考慮した5つの「ポライトネス・ストラテジー」を提案した。このストラテジーは一方の側の(1)がフェイス侵害を軽減しない。もう一方の側の(5)はフェイス侵害を起こす行為を行わない。こ

れら是对処の仕方が対極的で明確である。(1)の「はっきり言う」状況では,生命にかかわる緊急事態の場合や親しい相手との共有や共感を表す場合にあてはまる。(2)と(3)は上記の2を参照。(4)は「ほのめかす」ことで,直接的な言及を避けることができるが,「ほのめかし」の問題点には相手が,その場のほのめかしに気が付かない場合もある。最後の(5)は「フェイス侵害を起こす伝達行為」はリスクが高いため,その行為を行わない。下記(1)から(5)を,フェイスのリスクの観点から見ると,(1)から(5)の順番にリスクが大きくなっている(Brown & Levinson 1987:68-74)。

- (1) フェイス侵害を軽減しないで,はっきり言う  
(Bald on record)
- (2) 積極的なフェイス侵害の軽減をした言い方をする  
(Positive Politeness)
- (3) 消極的なフェイス侵害の軽減をした言い方をする  
(Negative Politeness)
- (4) 言外にほのめかす  
(Off-record)
- (5) フェイス侵害を起こす伝達行為をしない  
(Don't do the FTA)

## 2.2. フェイス侵害度測定法

ブラウン&レヴィンソン(1987)は「FTAの大きさの度合い」 $W_x$  ( $W$ =Weightiness)を測る方法を,次の(6)の公式によって示した。

$$(6) \quad W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$$

(Brown & Levinson 1987:76-78)

上記の $W_x$ は3つの要因からなる。1.  $D$ (Distance)の「社会的距離」は $S$ (Speaker)「話し手」と $H$ (Hearer)「聞き手」による。2.  $P$ (Power)「相手との力関係」は $H$ (Hearer)「聞き手」と $S$ (Speaker)「話し手」の力関係である。3.  $R_x$ (Ranking of imposition)は「特定の文化における負荷」を意味する。 $D(S, H)$ はFTAの侵害度にお

ける親しさの度合いによる親疎の社会的距離, $P(H, S)$ は人間関係における話し手と聞き手の力の違い,そして $R_x$ は互いの文化の違いによって生じる負荷である。これらの3要素は対人間コミュニケーションの場合に,お互いのコミュニケーションを円滑に行うための必須とも言うべき公式と言っても過言ではない。上記3の「特定の文化における負荷」の具体的な事例について,滝浦(2008)は「ストラテジーの文化内的分布を異文化間で比較することによって,対人関係のパターンが導き出される」と述べて, $D$ 値と $P$ 値の高低によって,日本の社会について,下記の事例の比較を試みている。

- (7) カースト制度の残るインディカタテ関係の[低  $D$ ,高  $P$ ]
- (8) アメリカ西部的ヨコ関係の[低  $D$ ,低  $P$ ]
- (9) イギリスと類似の[高  $D$ ,低  $P$ ] (滝浦 2008:120)

上記(7)はタテ関係のネガティブ・ポライトネス文化である。(8)はヨコ関係のネガティブ・ポライトネス文化である。(9)は $D$ 値が(7)や(8)と違って高く,ネガティブ・ポライトネス文化であるが, $P$ 値の上下関係は低い。これは滝浦によると,「この百年ほどの社会的変化を考えれば,日本は[高  $D$ ,高  $P$ ]のタテ関係から,[高  $D$ ,低  $P$ ]のヨコ関係への移行途中」と考えられる。

さらに,「日本文化とアメリカ文化のプロフィール」について,バーンランド(1973)による122名の日本人学生と日本に留学している42名のアメリカ人学生の調査によると,日本人は自らを,「遠慮をする」,「改まっている」,「黙りがち」,「用心深い」,「つかみどころがない」,「まじめ」であると評価した。一方で,アメリカ人は日本人を,「遠慮をする」,「改まっている」,「用心深い」,「つかみどころがない」などと考えた。また,日本人はアメリカ人を,「自己主張し」,「率直」,「くだけていて」,「形式ばらず」,「おしゃべり」,「おどけた」態度をすると評価した。アメリカ人は自らを,「自己主張し」,「率直」,「形式ばらず」,「くだけていて」,「おしゃべり」であると捉えた(バーンランド【訳:西山・佐野】1973:62-68)。こ

の調査から、日本人とアメリカ人のコミュニケーションのやりとりの特徴が見えてくると言えよう。従って、ブラウン&レヴィンソンの「FTA の大きさの度合い」に含まれる R x (Ranking of imposition) の「特定の文化における負荷」の要素は欠かせない項目である。

### 3. 相手との心理的距離を縮める呼称および人称代名詞

#### 3.1. 呼称

椎名(2017)は人間関係を構築する呼びかけ語において、近距離呼称を表す語に Dear(愛称), Mother(親族語), Friend(友好語), George(名前), Smith(苗字)を掲げている(椎名 2017:104)。また、椎名は(10)によると、“Mouse dear!”は、愛情が込められた近距離呼称で、愛称の‘dear’を用いて積極的に距離を縮めている。これは「他人に受け入れられたい・他人によく思われたい」というポジティブ・ポライトネスである。また、(11)について、椎名は、Uncle Vernon という近距離呼称の親族語を用いている。また、フェイス侵害度はヨコ関係の[低 D, 低 P]に相当する。

(10) So she called softly after it, “Mouse dear!...”

(アリスは優しく声をかけました。

「ねえネズミさん！」)

(Carroll 1865 [訳:椎名 2017:106])

(11) ‘Er—Uncle Vernon?’ ‘Er—.’ (「あの—、バーノンおじさん—」) (Rowling 1997 [訳:椎名 1997:110])

#### 3.2. Paternal ‘we’

英語には「親心」の‘we’と呼ばれる用法がある。これも近距離呼称と言ってよいだろう。水谷(1985:205)によると、親が子供に対して、また教師や医師が生徒や患者に対して用いるもので、you のかわりに we を用い、相手と自分とが一心同体に考えているという姿勢を示す。(12)は子供に向かって、食事をさせるために呼びかけている。(13)は医師が患者に共感を示している。何れも親しみが込められた丁寧表現である。また、フェイス侵害度に

ついては、実際には社会的距離はあるものの、コミュニケーションはヨコ関係の[低 D, 低 P]に相当する。

(12) Don’t we want to eat our oatmeal so we’ll grow big and strong? (大きく強くなるようにオートミールを食べましょうね。)

(13) So we rise early in the morning, do we?

(それで早起きをするんですね。)

(水谷 1985:205)

(14) How are we feeling today?

(今日は気分はいかがですか。)

#### 3.3. 「共感」の‘you’

英語には自分自身の経験を述べる際に、一人称の I を用いずに、(15)および(16)の例に見られる二人称の you を用いる場合がある。小森(1992)によると、「話し手が聞き手に共感してもらいたい、自分も持っている世界観を共有してもらいたい、そして、聞き手を自分の共感の世界へと引き込むのである」と述べている(小森 1992:190-195)。上記の we に比べて、you の方が相手に直接呼びかけている。(15)の英文の you は日本語では「自分」という訳になっている点が興味深い。しかし、(16)では you は訳出がなされていない。これもフェイス侵害度については、ヨコ関係の[低 D, 低 P]に相当する。

(15) The special anxiety of the high proles is fear about loss or reduction of status: you’re proud to be a master carpenter, and you want the world to understand clearly the difference between you and a laborer.

(上層労働者階級が特に心配していることは、地位を失ってしまったか、あるいは、地位が下がったりはしないかということだ。例えば、自分が大工の親分であることに誇りをもっていたとすると、自分は一般の労働者とは違うことを世間にはっきりと分かってもらいたいのである。)

(Pall 1983 [訳:板坂(1987)])

(16) You often find that just when you want something  
you haven't got it by you.

(何か必要な時に,それが手許にないことはよくあ  
ることだ.) (UED [訳:石橋 221])

#### 4. 相手との心理的距離を縮める文法構造

##### 4.1. 付加疑問

付加疑問(tag question)は相手の意向に対する意識を反映する。また,音調の上昇調と下降調によって,意味のニュアンスに差が生じる。上昇調の付加疑問は,相手の意見に耳を傾ける働きかけを示す丁寧な言い方をしていいる。(17)は下降調で,相手も同じ意見に違いないという確信を表している。西光(1997:276)によると,命令文+will you は「職務上の依頼には決して用いられず,親しい間柄の人に,「ね,お願いだから,やってよ,ね。」といったニュアンスがある。また,西光は(18)の説明として,「たばこを吸い過ぎだと言われた息子が父に反発して言っている。」と述べ,(19)はバーの客がウェイターに注文をしている。(18)と(19)のフェイス侵害度については,社会的距離はあるために,[高 D,低 P]に相当する。

(17) You didn't like the movie very much, did you?

(映画,あまり気にいらなかったのね.)  
(水谷 1985:207-208)

(18) a. You're smokin' too much.

b. Leave me alone, will ya? (Wall Street)

(19) Billie! Bring a Molson Lite for the kid, will ya?

(ibid.)

##### 4.2. You know

相手との距離感を縮めるには,お互いに同じ知識を共有し,共通した経験を持つことである。東(1994:65)によると,「あなたと私は同じ内にいる仲間同士なのですよ」と確認しあい,ほとんど無意識に you know が使われる。これは東によると,「どう言葉で表現したらいいのか分からないけど,でもあなたなら私の気持ちをお分かりいただけるでしょう」という意味である。ただし,あまり頻

繁に用いると,丁寧さよりも諄さが感じられるため注意する必要がある。また,フェイス侵害度はヨコ関係の[低 D,低 P]に相当する。下記の例は(東 1994:65-66)による。

(20) I am embarrassed to say this, but my wife left me,  
you know.

(いいにくいことなんだけど,うちのやつに逃げられちゃったんだよな.)

(21) Well, I don't know what to say, besides I feel very  
sorry for you, you know.

(何ていったらいいか分からないけど,大変なことになったね)

(22) a. Oh, well. You know, I need some help. (それで,  
助けになってもらいたいんだ)

b. OK, Anything. (わかったよ,何でもいいよ)  
(東 1994:65-66)

##### 4.3. 「相手のいるところへ行く」 come

松倉(2020:63)によると,come の中核的な意味とされる「相手のいるところへ行く」という言語事実が下記の日本の小説の中に見られる(23a)。この日本語「行く」の英語の翻訳(29b)では,go ではなく come が用いられる。巻下(1997:55)によると,come は「話し手が,(相手がこれから行くはずの所へ) 移動する」意味がある。コミュニケーション上は,丁寧とは言えないが,視点を相手に置いている点に親しみが込められていると考えられる。下記(25)の例は巻下(1997:53-58)による。

(23) a. 「私もいつか,あなたたちの世界にいきますよ」  
(遠藤周作『口笛吹くとき』En: *When I Whistle*)

b. "Sometime I'll be coming to your world, too."  
(Gessel, Van C. 訳 1980)

(24) a. 「じゃあ君,先に一人でどこかに行ってるよ,僕は  
いろんな用事を済ませてから,・・・」  
(村上春樹『ノルウェーの森』En: *Norwegian Wood*)

b. "Okay, then, you go on ahead and I'll come after  
you once I've cleared up things this end."

(Birnbaum, Alfred 訳 1989)

- (25) a. 「君たち, どうする, どこかで一杯, やっていか  
ないか」 (遠藤周作 *ibid.*)  
b. “What’re you two doing now?”  
“Will you come and have a drink with us?”  
(Gessel *ibid.*)

#### 4.4. 現在進行形

水谷(1985)によると, 「英語の *progressive form* は具体的で情感に富む表現形式であるため, 親愛表現としても用いられる」と述べ, (26a)よりも, (26b)の方に親しみがある(水谷 1985:206)。また, (27)では子供に「今晚は早く寝るんですよ」と言いかかせている。同様に(28)と(29)においても, すぐに行われる動作を示す進行形が親しい印象を与えている(水谷 1985:206)。

- (26) a. When will you come to see us?  
b. When are you coming to see us?  
(27) You’re going to bed early tonight.  
(28) I’m afraid I must be going.  
(29) We’ll be meeting you again soon.  
(水谷 1985:206)

#### 4.5. 現在完了形

過去時制と現在完了時制の違いは, 前者は過去で完結し, 後者は現在につながっている点である。野口(1983)によると, (30) の日本語の「お送りしました」は, (31a)の過去形と(31b)の現在完了形の二つの英語訳が可能である(野口 1983:184-185)。書簡文を調査した野口は, 「過去時に言及する際, 過去時制よりも現在完了が多く用いられる」と述べている(野口 1983:186)。顧客に商品を発送したことが過去で完結しているよりも, 明記はされていないが, 商品が無事に到着したのかといった現在までのつながりがある点が, 顧客に対して親密であると言える。また, フェイス侵害度については, [高 D, 低 P]に相当する。

- (30) 今朝, 当社の販売用印刷物一式を航空便でお送り

しました。

- (31) a. We sent you a full set of our sales literature by air this morning.  
b. We have sent you a full set of our sales literature by air this morning.  
(野口 1983:184-185)

#### 4.6. 命令文

命令文は *FTA* に関わり, 相手を侵害させるために避けなければならない表現であるが, 家族や肉親等のように親密な人間関係であれば, 相手との距離を一層縮める表現になる。相手との人間関係が既にしっかり構築されているからこそ用いられる表現である。フェイス侵害度については, ヨコ関係の[低 D, 低 P]に相当する。

- (32) Bring me your dirty clothes to wash, honey.  
(洗濯するからあなたの汚い服を持ってきて, ハニー)  
(福田 2013:125)  
(33) Until then, take care of yourself and have a fruitful time for research and maybe socio-cultural observations.  
(それまで体に気をつけて, 実り多い研究生活を送ってください。できればさまざまな社会文化的観察も楽しんでくださいね。)(福田 2013:155)

#### 4. 相手との心理的距離を縮める日英語の対話表現

##### 5.1. 積極的表現

下記は北尾(1993)からの例である。(34)の *Let’s start* および(35)の *Why don’t you* は, 相手に対して直接的で親密的である。(36)の *If you help me today* では具体的な交換条件を示し, *I’ll help* により, これも直接的で親密さがある。日本語表現の(37)は賞賛, (38)は祝賀の表現である。フェイス侵害度については, (34)~(38)はヨコ関係の[低 D, 低 P]に相当するが, (38)はフォーマルな表現である。

- (34) Let's start fixing dinner.  
(35) Why don't you take me out to dinner tonight?  
(36) If you help me today, I'll help you tomorrow.  
(北尾 1993:34)  
(37) 「テニス,本当にお上手ですね。」  
(38) 「息子さんの大学ご入学,さぞかしご家族で喜び  
のことと拝察致します。」 (福田 2013:47-49)

また,相手にケーキをすすめる場合,(39)の例では,「このケーキはおいしいから,是非食べて」と積極的にすすめる.しかし,もう一方で,日本語では(40b)のように,へりくだった否定表現になる.この例から,日英語間で文化が異なると,それに応じて表現されるスタイルも異なることが分かる.

- (39) You must have some of this cake.  
(40) a. お口汚しに……  
b. お口に合わないかもしれませんが,ケーキを作りましたので,召し上がっていただけるとうれしいのですが.  
(西光 1997:282)

## 5.2. 欠点を表明する表現

ポジティブ・ポライトネスとして,自分もしくは相手の欠点を述べる例が見られる.津田(1999)によると,「ポジティブ・ポライトネスとは,自分の negative あるいは positive-face want を傷つける危険をある程度犯しても,相手と親しくなりたいときに用いられる」と述べている(津田 1999:76-77).(41) は,Isabel は彼(Jerry)のことをもっと知りたくなり,彼女も彼に極めて率直に「なんで,わざと頭が悪いと思われたいの?」と尋ねている.(42) は教室で答案を受け取るシーンである.津田は「お互いが親しいので,相手の欠点を言っても大丈夫という前提にたっているのがからかいであり,ポジティブ・ストラテジーのひとつなのである」と述べている(津田 1999:76-77).これらの「危険を犯しても,相手と親しくなりたい」という相手に寄り添った表現は興味深い.

- (41) “But that you're very brilliant.”  
“No, I used to be. But I gave it up when I quit school to take up tennis full-time.”  
“Why are you so anxious to be thought of as stupid?” she asked with genuine interest.  
(Segal *Prizes* 1995 :159)  
(42) 「なんや,おまえ,17点か,えらい違いやな」  
「この前は15点や,2点も上がったら,たいしたもんやで」・・・香子はすばやく阿部の答案を取り上げ,やりかえした.  
「おまえかて34点やないか,ハハハハ,何のこっちゃ」  
「おまえの2倍やぞ,おれとおまえはここが違うんや」阿部は思いっきり憎さげな顔を作って,頭を指さしてみせる.(大石『ふたりっこ』1996:13)

## 5.3. 相手の視点からの呼びかけ語を用いた表現

下記の(43)は相手の視点から,相手の立場を表す語の「ぼく」を用いている.同様に(44)は相手の視点から,自分を指し示す語「父さん」をそのまま使っている.(45)では Mummy を自称して使用している.(46)では子供の発言を受けて,「お父さん」と自称している.これらの表現は何れも,相手との距離感を縮める親しみ深い表現である.

- (43) 「ぼく,どうしたの」 (佐久間 2004:124,153)  
(44) 「父さんは先に帰るよ」 (ibid)  
(45) ‘Dinky Duddy-dums, don't cry, Mummy won't let him spoil your special day!’  
(「ディンキー・ダディダムちゃん,泣かないの.ママがついてるわ!」)  
(Rowling 1997 [訳:椎名 1997:109])  
(46) a. 子供: お父さん,今日,映画に連れて行ってくれる?  
b. 父親: お父さん,今日は忙しいから,あしたでいいだろ?  
(牧野 1996:178)

## 6. おわりに

本稿では、主にポジティブ・ポライトネスの「相手と心理的距離感」をあまり感じさせない対人コミュニケーションについて、話し手と聞き手との人間関係により、ことばの選択が行われるため、その状況に合わせたコミュニケーションに着目した。

この考察のため、ブラウン&レヴィンソンのポライトネス理論に基づき、「話し手」と「聞き手」による「社会的距離」, 「聞き手」と「話し手」の力関係,そして、「特定の文化における負荷」に焦点を置いた「フェイス侵害度(測定法)」を理論的根拠とした。

相手との心理的距離を縮める事例について、最初に着目した点は、呼称および人称代名詞であり、次に相手との心理的距離を縮める付加疑問, 命令文, 現在分詞などの文法構造,最後に、積極的表現, 欠点を表明する表現,そして相手の視点から見る呼びかけ語を用いた表現について、日英語における表現の差異についても分析を試みた。

## 参考文献

- Allot Nicholas (2010) *Key Terms in Pragmatics* [訳: 今井邦彦監 (2014)] 開拓社 98-99.
- 東 照二 (1994) 『丁寧な英語・失礼な英語—英語のポライトネス・ストラテジー—』 研究社 65-68.
- Brown P.& Levinson, S. (1987[1978]) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge University Press.
- Dean C. Barnlund (1973) *Public and Private Self in Japan and the United States* [訳: 西山千・佐野雅子(1979)] 『日本人の表現構造』サイマル出版社 62-68.
- 福田一雄 (2013) 『対人関係の言語学 ポライトネスからの眺め』 開拓社 47-49, 125.
- Grice Paul (1989; 1975) *Studies in the Way of Words* Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press 26-28.
- Harper Kenneth *Falling in Love* [訳: 津田早苗(1994)] 82-85.
- 日野資成 (2009) 『ベーシック現代の日本語学』 ひつじ書房 100.
- 石橋幸太郎編集主幹 (1966) 『英語語法大事典』 大修館 221.
- 伊藤達也・松倉信幸・市島清貴編 (2016) 『言語コミュニケーションのこれから』 朝日出版社.
- 北尾謙治 (1993) 『英語コミュニケーションの理論と実際』 桐原書店 34.
- 小泉 保 (2001) 『入門語用論研究—理論と実践—』 研究社 128.
- 小森道彦 (1992) 「八章 人称ダイクシスの磁場」『グラマー・テキスト・レトリック』 安井 泉編 くらしお出版 190-195.
- 佐久間淳一・加藤重広・町田健 (2004) 『言語学入門』 124,153.
- 松倉信幸 (2018) 「日英語比較によるコミュニケーションの理論から見る丁寧表現に関する一考察」『鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要第1号人文科学・社会科学編』 117-128.
- 松倉信幸 (2020) 「日英語比較による come と go に関する一考察」『鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要第3号人文科学・社会科学編』 63.
- 水谷信子 (1985) 『日英比較 話しことばの文法』 くらしお出版 205-206.
- 中島信夫 (2012) 『語用論』 朝倉書店 119.
- 西光義弘編 (1997) 『英語学概論』 くらしお出版 258-285.
- 野口博一 (1983) 「146. We sent か we have sent か」『商業英語クエスチョン・ボックス』 長野 格編集主幹 大修館書店 184-186.
- Pall Fussell (1983) *Class: A Guide through the status system* Touchstone. [訳: 板坂元 (1987) 光文社].
- Sakamoto Nancy & Reiko Naotsuka (1982) *Political Fictions* Kinseido.
- 椎名美智 (2017) 「第9章丁寧さのスタイル」『英語のスタイル 教えるための文体論入門』 豊田昌倫・堀正広・今林 修編著 研究社 102-114.

滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社 119-120.

Wyld H. C. (1936) *The Universal Dictionary of the  
English Language* Herbert Joseph.

執筆者の所属と連絡先

鈴鹿大学国際地域学部

Email: n-matsukura@suzuka.ac.jp





# A Comparative Study on Interpersonal Communication between the Japanese and English Languages from the Viewpoint of Communication Making a Psychological Distance Shorten

Nobuyuki MATSUKURA

## Abstract

In this paper, taking positive and negative politeness into consideration, interpersonal communication from the viewpoint of communication making a psychological distance shorten will be mainly discussed.

With respect to the politeness communication, this paper refers to the politeness restrictions proposed by Leech (2003) and face threatening acts (FTA) advanced by Brown and Levinson (1987).

Above all, the interpersonal communication which can make a psychological distance shorten between the speaker and the hearer will be treated, from the perspective of a comparative study between the Japanese and English languages.

## Keywords

psychological distance, face threatening act, politeness, positive politeness, negative politeness